

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立以来かかげる「六綱領」（自主・自律・堅忍・果敢・創造・開発）を基に、生徒の個々の夢を実現させる教育活動を実践し、社会人として自立でき、地域や社会に寄与する人材を輩出する。厳しく寄り添い、生徒・教職員がともに学び、ともに伸長することにより、「生徒・教職員にとって、楽しく伸び伸びと力を発揮でき、夢の実現に主体的に活動できる学校」、そして、地域との交流・連携を推進することにより、生徒・保護者・地域から愛され、信頼されるとともに、「地域に学び、地域とともに歩む学校」をめざす。

①夢を育み自立できる生徒を育成する学校 ～ キャリア教育・学習指導の充実 ～

生徒の持つ能力を掘り起こし、生徒の資質を磨き上げながら、「将来の夢について、自身で、自信を持って語ることのできる若者」を多く輩出できる教育活動を展開する。

②厳しく寄り添いながら生徒を指導・支援できる学校 ～ 生徒指導・支援体制の拡充 ～

様々な課題を抱えた生徒一人ひとりに対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校との連携を強めながら、できる限りの支援や指導を行う。さらに教職員個々が生徒の教育者であり、且つ、“生徒の応援者”としての機能を十分に発揮できる教育環境を構築する。

③地域とともに歩み、地域に愛される学校 ～ 地域連携の深化 ～

地域との連携を密にし、地域の豊かな自然環境や人材・施設等を活用した教育活動を展開し、地域力を積極的に取り入れながら、生徒の「豊かな心」、「生きる力」、「自尊感情」、「規範意識」を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 授業アンケートや学校教育自己診断の結果を踏まえ、「基礎学力の向上と定着」をめざした授業改善を行う。

ア 数学・英語において「習熟度別少数展開授業」を実施する。生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、進路に応じた選択科目を設定することで、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。また、教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をおして「授業改善」を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の授業理解度を3年後には70%とする。

2 生徒支援体制の整備と充実化

(1) 将来の自分の生き方を設計できる力をつけることがキャリア教育であると考え、全ての教育活動をこの観点を踏まえ実践する。また「総合的な学習の時間」とLHR等を活用し、キャリア教育や人権教育等を総合的に実施し、美原の志学を確立させる。

ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等全ての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。そのために入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を策定する。外部人材や地域・施設の活用を積極的に取り入れ、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。

イ「総合的な学習の時間」「LHR」を中心に、3年間を見通した人権教育の指導計画に則り、人権意識の向上を図る。課題を抱える生徒の情報について

学年、人権教育委員会、支援会議で共有できる体制を作る。

※進路未定率を限りなく0%に近づける。(平成28年度0.9%)

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には70%とする。

(2) 「ええもんはええ あかんもんはあかん」を原則に「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導を実践する。計画的に生徒理解の研修等を実施することにより意識と質の向上を図るとともに、傾聴と守秘の姿勢で生徒に向き合い、その恩を受け止め、生徒理解を深める。

ア 相談室の常駐体制と3Cルームの活用を図り、生徒が安心して相談できる環境を整備する。また、SCを活用し校内の相談体制を充実させる。支援コーディネーター、支援会議を中心に、中学校や相談機関、医療・福祉等関係諸機関との連携の深化を図る。

※転退学者及び留年生の減少

3 生徒と教職員が安全で安心して過ごせる、魅力ある学校づくり

(1) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。また、地域への広報活動に積極的に取り組み、美原の良さをアピール、入ってよかった学校をめざす。さらに、地域の関係諸機関との連携を密にし、地域とともに歩む学校をめざす。

ア 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動等を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 中学校訪問、学校見学会や学校説明会等のさらなる充実を図り、美原に入りたい生徒を増やす。

ウ 体育専門コースの充実を図り、活動を地域にも広げ、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の肯定度を3年後には80%にする。(平成28年度76%)

(2) 情報化・効率化を図るためにICT等を活用するとともに、HPのさらなる充実を図る。

ア 校務処理システムを活用することにより、教職員の事務業務を軽減し、生徒と接する時間の確保に繋げる。

イ HPをさらに充実させ、広報に努める。

※保護者向け学校教育自己診断の保護者への情報提供に関する項目の肯定度を3年後には53%にする。(平成28年度49%)

(3) 「地震などの自然災害にも対処できる防災計画の策定」、「機能的な危機管理体制の確立」により、安全で安心な学校づくりに努める。

ア 教職員、生徒による日常的な安全点検を実施し、安全に過ごせる環境整備に努める。

※年3回安全点検を実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒対象】回収率 100%</p> <p>ほぼすべての項目でポイントアップしている。「実習実験による体験授業」「国際理解教育」は大きくポイントアップした。また、「授業のわかりやすさ・質問のしやすさ・授業の工夫」についての質問ではポイントの上昇が全体の結果から見られ、特にプロジェクター導入の前後にいた40期生の経年変化においてポイントの上昇が顕著であったことからプロジェクター導入の効果を測り知ることができる。もう1つの授業改善として、講義形式の授業ではなく、実習や実験またはグループワークなどによる主体的な学習活動を取り入れている授業が各教科で積極的に行われている。その効果が「体験授業」に関する質問でのポイント上昇から伺える。教科指導においてだけでなく、総合的な学習の時間での国際・人権の取組みについても取り組んだことが同様に数字に反映されている。このように教員側が生徒の学習活動において、必要であると判断し、取り組んだことがきっちり生徒に伝わり、肯定的評価の上昇という結果として表れたことは喜ばしいことである。これは教員自身が改善することを柔軟に取り入れ、少しずつ工夫をしながら日々の授業に臨んだ結果である。またその取り組みを良い変化として生徒自身が素直に受け入れることができる教員との良好な関係性（信頼関係）によるものであると考える。</p> <p>【保護者対象】回収率 78.4%</p> <p>生徒と対照的にほとんどの項目でポイントがダウンしている。学校での生徒の現状や姿が伝わるよう、保護者に対し学校情報をこれまで以上に提供することで、学校の状況をより理解してもらうことが必要であろう。「部活動」の項目はここ数年ポイントがダウンしており、部活動の活性化が今後の課題のひとつである。</p> <p>【教職員対象】回収率 100%</p> <p>昨年度と比較するとポイントアップしている項目が多い。とりわけ、「人権や社会のルール」の項目は4年連続でポイントアップし、97.1%が肯定的回答である。ただ、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」の項目が3年連続でポイントがダウンしており、教材研究や授業改善が今後の課題のひとつと言える。</p>	<p>第1回(平成29年6月14日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前よりもよくなっていると実感した。学校らしい学校になっている。 ・生徒を受け入れる器(施設)は整っているの、今後は生徒を導く教員の力が更なる飛躍の鍵となるだろう。 ・校内の整理整頓は以前よりも行き届いているが、気になる箇所もあった。安全面に気をつけながら、施設の活用を図ってほしい。 ・図書館の蔵書数が少ないように感じる。本を読むことに意義がある。若い生徒には読書が必要なので、本を読む環境づくりにも力を入れてほしい。 ・学校が落ち着いた状態を維持するためには授業が大切。次は個を伸ばす環境をつくる。それができれば、学校力があがるのではないかと。 ・様々な課題を抱える生徒については、学習面でのバックアップ体制をさらに充実させてほしい。先生とのコミュニケーションは大切なので、学力に不安のある生徒などに相談室の利用を勧めしてほしい。 ・部活動の付き添いなどで、時間外勤務が増えている先生がいるのではないかと。教員の健康管理やメンタルにも留意する必要がある。 <p>第2回(平成29年11月27日実施)</p> <p>【授業アンケート】若い先生が増えてくると、学校での指導のためのスキルやモチベーションを高めていくことが必要である。</p> <p>【学校教育自己診断】PTA活動を知ってもらえる機会が少ない。小中高となるにつれて、敷居が高くなってきているように思う。学校からも働きかけてほしい。</p> <p>第3回(平成30年2月5日実施)</p> <p>【H29 学校経営計画評価(案)・H30 学校経営計画(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備が導入されたものの利用に結びつかないことが多いが、美原ではそれが利用されているたいしたものである。成果が目に見えるのは立派。 ・保護者の肯定率が生徒に比べ、低いのが気になる。保護者は高校に関心を持っているので、発信力を強化し、美原らしさをアピールしてほしい。 ・図書館のICT環境をさらに充実させて生徒の学びをさらに支援してほしい。図書室の名称を「学びのセンター」にした方がよいのではないかと。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 基礎学力の向上と定着をめざした授業改善の取組み ア 生徒実態に応じた「わかる授業」の展開 イ 公開授業見学、研究授業、授業アンケートを活用した授業改善の推進 ウ 他校種の授業見学等による教員力の向上	ア・1年生英語、数学での習熟度別少人数展開授業を継続し、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にすることを育む。 ・3年生国語、英語で少人数展開授業を実施し、進路実現に向けて自己表現能力の充実を図るとともに、英語でスピーチできる力を育む。 イ・公開授業期間を教員相互の授業見学期間と位置づけるとともに、全教科の研究授業を実施し、助言及び分析を実施。さらに授業アンケート結果の分析結果を基に、教科内で授業改善を図る。 ・ICT機器を積極的に活用し、生徒が自ら考えることのできる授業を展開する。 ウ・経験年数の少ない教員を中心に中学校、支援学校の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。 ・年2回の公開授業を学校協議会委員、地域の中学校教員に公開し、意見聴取を行う。	ア・生徒向け学校教育自己診断「勉強することは大切」82%(平成28年度81%)少人数によるきめ細やかな指導 63%(平成28年度62%) イ・公開授業期間を2回、研究授業を各教科1回ずつ実施する。ICTを活用した授業に関する研修を少なくとも2回実施する。 ・生徒向け学校教育自己診断「教え方の工夫」69%(平成28年度68%)「授業はわかりやすい」64%(平成28年度63%) ・教職員向け学校教育自己診断の「授業におけるICT機器の利用」80%以上 ウ・他校種の授業見学2回実施 ・学校協議会委員の肯定的意見 80%以上	ア・「勉強することは大切」は82%、「少人数によるきめ細やかな指導」66%であった。授業アンケート、少人数授業アンケートからは、生徒の授業への取組み姿勢が向上していることが窺える。(○) イ・公開授業、研究授業は計画通り実施するとともに、授業改善に向けた研修会を4回実施した。・学校教育自己診断「教え方の工夫」74%、「授業はわかりやすい」69%(○) ・学校教育自己診断の「授業におけるICT機器の利用」94%であった。教員同士が日常の教育活動について話し合い(93%)、授業が「主体的で対話的な深い学び」となるよう、授業改善に向けた取組みを実践するようになってきた。(◎) ・他校種の授業見学を3回実施した。(○) ・学校協議会の委員の授業見学も実施、「生徒がいきいきとした顔で授業に取り組んでいる姿に感心した。ICT環境が整ったこともあるが、教員の努力もある」との声をいただいた。(○)
2 生徒支援体制の整備と充実化	(1) キャリア教育、人権教育の推進 ア 3年間を見通したキャリア教育による進路実現 イ 人権教育の推進 (2) 「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導の実践 ア 個に応じた支援体制の充実	(1) ア・3年間を見通した進路指導計画に則り、進路指導の充実を図る。1年生から進路に対する認識を高め、目的意識を持った高校生活を送ることができるよう、進路講習、説明会等を充実させる。 イ・3年間見通した人権教育計画に則り、人権意識の向上を図る。 (2) ア・支援会議を教育相談の中心に位置づけ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。	(1) ア・学校斡旋就職1次内定率85%以上(平成28年度85%)、希望する大学・短大・専門学校等への進路実現率97%以上(平成28年度97%) イ・生徒向け学校教育自己診断における「人権」に関する肯定度69%(平成28年度68%) (2) ア・学校教育自己診断における生徒の肯定度52%(平成28年度51%)、保護者の肯定度67%(平成28年度66%)	ア・1次内定率は85%、進路実現率は97.9%。進路資料室の整備、図書館の読書・学習環境の整備を行い、自学自習できる環境が整ったこともあり、難関私大に挑戦し、合格する者もいた。(◎) イ・「人権」の肯定度83%。SNSや障がい者理解を深める人権学習を行った。(○) 生徒支援に関する肯定的評価(今年度はいじめを文言に加えた) ※H29 生徒67%・16%UP 保護者64%) ア・学年会、人権委員会、いじめに係る委員会で生徒の微細な変化を素早くキャッチし、未然防止に努めている。(○)
3 安全安心で、魅力のある学校づくり	(1) 生徒の自己有用感の醸成 ア 生徒会活動・部活動の充実 イ 広報活動のさらなる充実 ウ 体育専門コースの充実 (2) ICT活用・HPの充実 ア 校務処理システムの活用 イ HPの充実	(1) ア・体育大会、文化祭、球技大会等の学校行事に生徒会部を中心に、全生徒が主体的に参加できるような行事を企画する。 ・生徒会、PTAを中心に生徒と協働できる活動に少なくとも3回取組む。 ・生徒会企画による部活動発表会(4月新入生向け、文化祭等)を実施するとともに、あらゆる機会を通じて部活動を顕彰する。 ・地域中学生参加による部活動の大会(美高杯)、学校見学会における部活動体験や校内見学を生徒が企画、運営することにより、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。 イ・旧7学区以外の中学校への広報活動を実施するとともに近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。 ウ・体育専門コースで、特色ある授業を展開することにより、体育専門コースをめざす生徒を増やし、達成感を醸成することにつなげる。 (2) ア・校務処理システムの活用により生徒の実態把握を迅速に行い、生徒と向き合う時間を確保する。 ・全教員輪番制による朝の駐輪指導、遅刻指導、授業巡回、昼休みの巡回を実施する。 ・遅刻特別指導、生活習慣確立週間を継続実施するとともに、交通事故防止に努め、「命の大切さ」を学ばせる。 イ・HP等で、本校の取り組み等を発信し、広報活動の充実を図る。また、保護者向けメール配信を充実させ、適切な情報を提供する。	(1) ア・生徒の学校行事に対する満足度77%(平成28年度76%) ・新入生の部活動加入率50%以上(平成28年度64%、最終53%) ・美高杯参加中学校1種目あたり平均8校(平成28年度45校976名) イ・校内外での学校説明会等の参加者1,000名以上(平成28年度891名)、近隣の中学校訪問4回以上 ウ・体育専門コース選択生の満足度95%以上 (2) ア・校務処理システムを活用して遅刻数をカウントし、遅刻回数一人平均2回以内をめざす ・生徒向け学校教育自己診断における「生活指導」に関する肯定的意見51%以上(平成28年51%) ・自転車の交通事故件数昨年度以下にする(平成28年度31件) イ・保護者の学校教育自己診断における肯定的意見50%以上(平成28年49%)保護者向けメール配信回数80回以上(平成28年度65回) ・HPのアクセス数を増やす(年間30,000件以上)	ア・学校行事に対する満足度78%(○) ・体育大会・文化祭・マラソン大会・環境美化活動など協働した取組みを行った。(○) ・新入生の部活動加入率50%(○) ・美高杯については、サッカー・男女バスケット・バレーの計4回実施した。卓球の部は、会場の都合がつかずやむなく中止となった。参加人数は昨年実績とほぼ同じ、延べ38校960人(○) イ・広報用パンフレットを改定するとともに、近隣の中学校訪問4回以上行った。校内外での学校説明会等の参加者は昨年を上回る930名であった。学校説明会での中学生・保護者満足度は9割以上(○) ウ・野外キャンプ実習・カヌー体験に加えて、ゴルフ場でのゴルフ実習を実施した。体育専門コース選択生の満足度2年生98%、3年生98%(○) (2)ア・遅刻回数一人平均1.2回(◎) ・輪番制による指導により、生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できる環境の維持に寄与できている。(○) ・「生活指導」に関する肯定度66%(○) ・交通安全指導(年間3回、実践も含め)を強化しているが、軽微なものをふくめると、事故は減っていない。生徒の自転車事故37件(△) イ・保護者の学校教育自己診断における「HP・メール」利用度54%、保護者向けメール配信回数151回(○) ・HPのアクセス数、年間30,000件以上に(H29 約25,000)(△)